学校番号	3017

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	（前）　現代文Ｂ （後）　国語演習	単位数	前１ 後(文)2(理)1	年次	３年次
校内名称	（前）　現代文 （後）　現代文、記述国語(文系のみ)			ユニット数	前 1.5 後(文)2.5 (理)1.5	必選別	必修
使用教科書	高等学校現代文Ｂ［改訂版］　（三省堂）						
副教材等	新国語総合ガイド四訂版（京都書房）　読み解くための現代文単語（文英堂） 頻度順入試漢字の総演習改訂版(三省堂)　評論速読トレーニング 2000(数研出版)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〈現代文とは〉

現代文という科目は、様々なものの見方や、近現代とはいかなる時代であるのかを学び、学んだことを基盤として多面的に物事を考える能力を身につけるための科目である。そのためには文章を正確に読み取り、筆者の言わんとしていることを正しくつかむ必要がある。そしてそれを書いたり話したりして、人に間違いなく伝わるように表現しなくてはいけない。様々な文章を読んだり聞いたりする中で、筆者や話者、場合によっては出題者とコミュニケーションをとり、自分の中には存在しなかった「ものの見方・考え方」に触れ、考えを深めて、大きくなってもらいたい。

〈漢字・現代文単語の学習について〉

新たな漢字・新たな言葉を知るということは、新たな概念を得ることである。それは即ち、自らの思考の枠組みを広げ、抽象的思考能力を育む行為なのである。単に漢字・用語を丸暗記するのではなく、きちんとそれらの意味を理解した上で使えるようにして、読解力やコミュニケーション力の向上に役立ててもらいたい。

2　学習の到達目標

現代を知る上で必要不可欠な、言語論・科学論・芸術論・近代論など様々なジャンルの文章を丁寧に読解したうえで、自分の頭でその内容について考え、表現する。漢字・現代文単語の学習にも随時取り組み、一生ものの読解力（聞き取る力も含む）と表現力（書く力・話す力）を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d：読む能力	e：知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 定期考査	授業での発言 記述の点検	記述の確認及び分析（感想用紙） 定期考査	記述の確認及び分析（問題集） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （問題集） 定期考査

評価点の割合は、考査点９０％程度、平常点１０％程度である。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期中間考査まで	評論	【評論】 『身体〈の〉疎外』 （黒崎政男）	○		○	◎	○	d:文章の構成や、段落相互の関係を読み取りながら、筆者の主張や内容をとらえる。	acde 行動の観察と確認・定期考査
	小説	【小説】 『美神』 （三島由紀夫）	○	○	○	◎	○	c:適切な表現で感想を書く d:登場人物の人物像、心情の推移を的確に把握する。	abcde 行動の観察と確認・記述の確認及び定期考査
前期期末考査まで	評論	【評論】 『虚ろなまなざし』 （岡真理） 【小説】 「舞姫」 （森鴎外）	○	○		◎	○	d:評論では、文章の構成や、段落相互の関係を読み取り、筆者の主張や内容をとらえる。小説では、登場人物の人物像、心情の推移を的確に把握する。	abcde 行動の観察と確認及び定期考査
後期中間考査まで	評論	【評論】 『無常ということ』 （小林秀雄） 『日本文化の雑種性』 （加藤周一）	○		○	◎	○	d:　文章の構成や、段落相互の関係を読み取りながら、筆者の主張や内容をとらえる。	acde 行動の観察と確認・記述の確認及び定期考査 acde 行動の観察と確認・記述の確認及び定期考査
後期期末考査まで	入試対策演習	適宜過去問など	○	○	◎	○	○	C:　相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深める。	abcde 行動の観察と確認 記述の確認

※　表中の観点について a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力　d:読む能力　e：知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元で観る。また、その単元で主として指導する国語の領域に◎を付している。